

## 2月19日松本市提案「寿放課後児童クラブ設計概要」についての要望書

2007年2月26日

松本市市長  
菅谷 昭 様

寿児童育成クラブ(寿学童)  
父母会長 油井 正義

日頃より市民の暮らし向上のため、特に子育て支援に尽力いただいていることに心から敬意を表します。

さて先日2月19日(月)午後1時30分から「寿放課後児童クラブ建設に関わる設計概要説明会」が行われ、子育て支援課より「日時がないため要望があれば今週中に出してほしい」と依頼がありました。本来であれば実際に利用する関係保護者に向けても市は説明会など行ってから時間をかけて依頼される中身とお伝えしましたが、行って貰えませんでした。

2月の議会も間近であることも考え、市への文書質問状と回答、他の学童関係者への連絡、寿学童の臨時父母会の開催などを早急に行い、要望書を取りまとめました。よろしくご検討の程お願いします。

### 1、要望事項

最新の国の方針との整合性の検討不足、また根本的なこの事業の設置基準・運営方法・保育方法が不明確なため、施設の必要要件が確立できず、8400万円もの費用をかけるのにふさわしい施設なのか判断できません。

早急に専門家の方にも入っていただき、センターと学童クラブ指導員(実際に指導に携わる方々)、両者の保護者の代表、行政も加わった協議会を至急立ち上げ、しっかりとした議論をし、留守家庭の子ども達にとって安心、安全であり、充実した生活が過ごせる、子どもの成長期にも考慮した施設の設計を進めることを要望いたします。

理由 寿小学校に隣接する細長い土地に「寿放課後児童クラブ」の2階建施設を改めて提案をいただきましたが、215名もの小学生が一同を介して集まる点、それに見合った広さと安全対策が充分でなく、また子どもがのびのびと遊べる施設、庭、遊具がほとんどないことなどから、子どもの安全と情緒の安定に充分配慮されたとはいえず、子どもらしい生活の場が保障された施設になっていないこと。また8400万円の施設にもかかわらず、子どもの専門家の意見が反映されているものとは思えないため部分的な変更ではなく、根本的な論議を行う必要があること。

全国厚生労働関係部局長会議(07年1月15・16日開催)の放課後児童クラブ(単独設置分)の基本的整備方針によると本計画の想定登録人数215名規模の単独施設は国の方針に反しているため、建設費の国庫補助が貰えないと考えます。国は70名以上の施設については2クラブに分けて話し合いをするよう指導しています。(別紙1、資料参照、1施設来年度は1250万円の3分2が国と県より補助されます。また1校区複数施設を認めているので、分けて2施設にすれば、国と県から倍の補助がもらえます。)

70名を越える大規模施設で子どもの事故が増加しており、厚生省も安全の確保と児童の情緒の安定性のため、70人以下の施設に分離分割するように強く指導している（3年後から71人以上の大規模には運営費補助も打ち切られてしまう）。この時期にあえて215名規模を想定する大規模施設を建設することは非常に疑問です。また国、県の運営費補助を続けて貰うために 現在すでに基準はわかっているのに施設計画を修正せず、2年後に追加で大規模改修を行っていく計画は税金の無駄使いであり、避けなければなりません。

2月19日の説明会でも、地域の役員さんから「使い勝手がわからないのでこの施設がいいか悪いかわからない。使う側の意見をよく聞いていい施設にしてほしい」とご意見がありました。また市側も「施設の利用方法を含めた施設改善案をください。また施設に対する質問をどんどんお寄せください。都度お答えします。」とおっしゃっていました。そこで寿学童は文書（別紙2）で提出しましたところ『この施設にかかわる専門家の検討状況は無回答。またクラブの運営にかかわる部分は 無回答もしくは今後検討を進める』がほとんどでした。つまり施設の使い方、運用についてはこれからであり、子どもの生活場面、過ごし方、おやつを食べ方、お昼寝の仕方、部屋の使い方がほとんど決まっていない状態であること、また8400万円もの費用をかけて建設するのにふさわしい専門家の意見がほとんど加わっていない状況であると思われ、これをたたき台に改善していくには無理があります。

学童保育（放課後健全育成事業を含めた事業の総称）について全国的に有名で、松本市でもMウエーブの市民講座などでお馴染みの長野大学 社会福祉学部 助教授 石原剛志先生にも今回の設計概要を 別紙3のように評価していただきました。

今回の事業見直しの特徴として「登録児童の生活の場として充実した運営ができます。」とありますが、今回の設計図を見る限り、充実した運営の可能性を読み取れません。児童センターの登録児童の親からも「センターには一輪車などでの遊び場もあり、庭もあり、このままセンターでお願いしたい。新しい施設には行きたくない」という発言を聞きました。

開催していただけなかった保護者向けの説明会を開いてもっときちんと説明してほしいと考えます。（和田健康福祉部長は2月8日の電話で関係保護者に配慮した説明会を行います。とお約束をいただいた経過があります。）

想定規模とする215名（、6年含む）の数字根拠を文書で質問しましたが無回答でした（電話では児童センターでとったアンケートなどを加味したとのでしたが、くわしくは教えてもらえませんでした）。

11月2日市が学童へ提出した説明資料では5,6年を含まないで、今後3年間で増加する人数を推計して238名と出していましたが差が余りに大きいです。

想定人数は非常に大切なものでありますし、今後寿の5年、10年先を見据えた規模が求められると思います。

以上

放課後児童クラブ設計概要でみんなが心配していること

2006年2月26日

子育て支援課 市川課長 様

寿学童クラブ

父母会長 油井 正義

- 1、2階西側の非常階段がほしい。それに2階に子どもが多い設計なので百数十人いるので、東も非常階段狭いのではないか？またこれだけの子どもが2階で多少暴れても耐久性ある建物なの？でもプレハブですよねー。
  - 2、遊びは夫々300m位離れている児童センターや校庭、体育館に行くことを想定していますが、指導員の人数が少ないため自由にいけるようにならないと考えますし、またちょっとした遊びが出来る場所はこの施設自体にも必要です。卓球台が置けたり、一輪車遊びが出来る室内遊技場、ジャングルジムやブランコ、滑り台の遊具があり、ドッチボールぐらいはできる庭はほしいよね。(職員駐車場は別の場所にしてほしい)
  - 3、2階建ては危険なので出来るだけ避けてほしい。ただ万一2階も作る場合には安全対策をきちんとすること。トイレ、手洗い場、調理室(給湯室でない、子ども達がちょっとしたおやつ作りが出来る広さ)事務室、冷蔵庫(各部屋に夏の弁当置き場として)
  - 4、泥んこ遊びや学校休業日は1日過ごすことも考えればシャワーのできる部屋(身障者用トイレと兼用できるのでは)休養室ベットは事務所の脇に複数個(こんな場所だと指導員の目が届かない、子どもにからかわれる)
  - 5、1階の南側には吐き出し窓(非常口にもなる)とベランダ(部屋と庭の間施設は子どもの気持ちや和む場所になる)がほしい。
  - 6、2階屋根がフラットなので焼け込みが強い、夏はかなり熱くなる。屋根の改善および空調対策が必要だと思います。またひさしが短いのもっと長くして雨の吹き込みを防止する。
  - 7、一階窓の上にも屋根がいるのでは、雨の吹き込み防止と 万一、2階から人が落ちたとき落下のクッションにもなる。
  - 8、2階の窓に落下防止設備を。
  - 9、土地は造成して一面でボール遊びができるように平らにして。
  - 10 暖房施設は何をかんがえていますか？
  - 11 外から何をやっているのかわからない施設、建築現場のプレハブのようで暗い建物。窓を大きくしたり、数をふやしたりしてほしい。
  - 12 高さ22.5cmのロッカーは狭すぎる。
  - 13 この施設はつば単価が高いので、競争入札で決めるべき。
  - 14 図書コーナーは2階だけですと障害の子は行けない。
  - 15 夏休みなど長期休みは一日、そして何日も過ごさなければならぬ場所、たのしいことがあって行事があってまたみんなでお昼ぐらい出来るスペースがほしい。(1人1.3㎡で出来るの?)
  - 16 外トイレと外に足洗い場がほしい。
- \*もっとしっかりとした議論をし、熟考して、あとあとの子ども達にも長く使えるものにしてほしいと考えます。

以上